

# 空港を活かし、 飛躍するとよやま

～県営名古屋空港は開港10周年を迎えます～

県営名古屋空港は開港10周年を迎えます。この十年の間には、民間定期航空路線撤退の危機もありました。現在は、開港当初の六都市を上回る七都市に就航し、年間六十万人以上の方が利用しています。空港は、本町に空港そのものの利便性をもたらしているだけでなく、バス路線の充実、航空宇宙産業の立地など本町の発展の核になっています。

今月号では、ともに歩んできた名古屋空港の歴史と、開港十周年を記念して行われる様々なイベントについてご紹介します。

## ●名古屋空港の歴史

名古屋空港の歴史は、旧陸軍により半ば強制的に農地が買い上げられ、小牧飛行場として開設されたことに始まります。その後、米軍の管理下で農家の大規模な集団移転を伴う滑走路の拡張が行われました。米軍から返還された後は、自衛隊機と供用する中で中部圏の空の玄関としての役割を半世紀近くにわたって担ってきました。

そして、平成十七年二月、中部国際空港の開港とともに県営化され、小型機の拠点空港として再出発しました。当初の需要予測を上回る利用実績をあげていたものの、平成二十三年に民間定期航空路線を運航していたジェイエアの全面撤退という危機に直面しました。しかし、町民九百人による「県営

名古屋空港の路線存続を求める豊山町民総決起集会」の開催や、空港周辺自治体や商工会などによる路線存続の要望の結果、フジドリームエアラインズ（FDA）が就航を決定しました。FDAは順調に路線を拡大し、空港利用者数も平成二十五年には県営化以来初めて六十万人を突破しました。

## ●これからも空港とともに

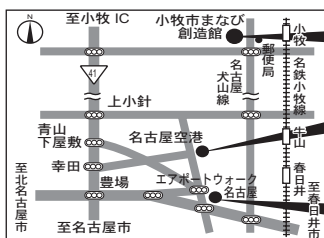
本町は、「空港のある町」から「空港を活かす町」へと歩みを進めています。

す。旧空港用地には、大型商業施設や宇宙航空研究開発機構（JAXA）が立地し、国産初のジェット旅客機MRJの最終組立工場の建設も始まりました。今後も、空港を核とした施策の展開により、本町の発展につなげてまいります。

今月を中心に、開港十周年を記念したさまざまなイベントを開催します。ぜひ足をお運びいただき、空港をより身近に感じる機会にしてください。

## 2/21 県営名古屋空港開港10周年企画

2月21日(土)は、3つの会場で記念イベントが開催されます。会場間は、無料のシャトルバスが運行していますので、ご利用ください。



- ①小牧市まなび創造館  
「なごや航空文化フェスタ」  
3ページをご覧ください。
  - ②県営名古屋空港(申込不要)  
・飛行機や空港で働く車の展示  
・防災ヘリコプターの美演など
  - ③エアポートウォーク名古屋(申込不要)  
・豊山中学校吹奏楽部演奏  
・新栄小学校児童による合唱  
・就航地PRイベントなど
- ②・③の開催時間などの詳細は、お問い合わせください。

## 2/17 三菱重工工場見学会 要申込

とき 2月17日(火) 午後2時から午後4時まで  
ところ 三菱重工業株式会社 小牧南工場  
内容 小牧南工場内の航空機整備の様子などをご覧いただけます。MRJに関する話も聞くことができます。  
募集人数 6名(申込者多数の場合は抽選)  
締切り 2月8日(日)

## 3/7 空港施設見学会 要申込

とき 3月7日(土) 午後2時から午後4時まで  
ところ 県営名古屋空港  
内容 普段は見られない県営名古屋空港の施設や、FDAの機体を間近で見ることができます。  
募集人数 8名(申込者多数の場合は抽選)  
締切り 2月23日(月)

▶申込み・問合せ 総務課企画財政・情報係 ☎28・0913